

# 新宿通信

NO. 106

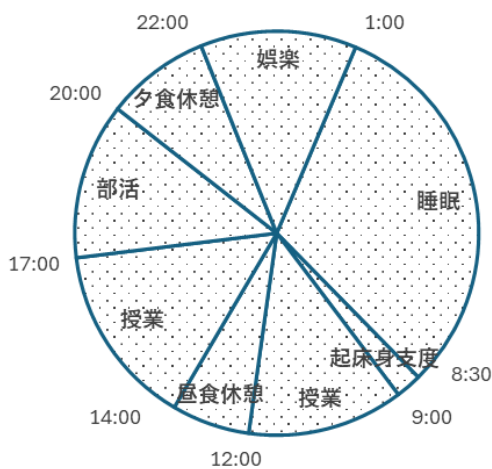
- 祝 卒業！
- 合格速報会

## 東京を離れて進学すること(大阪大学の例を紹介)

数学科 西志穂

いよいよ進級を控えた3月。生徒の皆さんの中には進路目標を決めかねて悩んでいる人もいることでしょう。今日は東京に限らず、他道府県への進学も考えるきっかけにしてもらえれば、と思い、担任したクラスの卒業生、現大阪大学1年生のN君に協力してもらって、進学後の生活について伺いました。私自身も地元長崎県から、大学進学を機に上京し、日々の生活が軌道に乗るまでは多くの失敗をしました。(お肉を腐らせたり、新宿駅が広すぎて途方に暮れたり…)が、意外となんとかなるものです。以下は、あくまでも1つの例ですが、進学後の生活についてイメージしてみて、さらに励みにしてもらえたら幸いです。

### Q1 大学生の1日はどんな様子ですか？



A. 平日は日によるのですが、部活のある日はこんな感じ(左図)で部活のない日は、友達と遊んだり家でゴロゴロしたりしています。授業が半日しかない日もあるので自由な時間は結構あります。休日は、部活のある日は午前には部活をして午後にバイトをしています。

### Q2 授業は難しいですか？

A. 大学の授業は高校よりも難しいです。一人でノートを見返しても理解できないことが多いので、友達と協力することが高校以上に大事になってくると思います。(特にテスト前)

### Q3 入学当初グローバルヴィレッジ(大阪大学の有する寮の1つで留学生と日本人学生の比率3:1!)に入寮されましたね。(現在退寮済み)そこでの暮らしはどうでしたか？

A. 季節ごとにイベントがあって、だいたい二か月に一回ぐらいのペースでした。イベントではビンゴや花火大会など遊びが用意されているので留学生の人たちと話すチャンスがたくさんあります。イベントで仲良くなった人には日本語を教えたり、夕飯を食べに行ったり今でもたまに連絡を取っています。ルームメイトとは共有スペースで一緒にご飯を食べていて、とても楽しくて英語の勉強にもなりました。しかし、バイトを始めてからは帰るのが遅くなり、夕飯の時間が被らなくなったので関わりがかなり減りました。ルームメイトも自分もご飯の時以外は共有スペースを使わないので、思っていたより関わりが少なかったです。あと、寮から大学まで片道30分かかると、部屋がめちゃ狭いのでそこも大変でした。

Q4 地元大阪の人ばかりですか？

A. 都立高出身の人たまにいますが、西日本出身の人がかなり多い印象です。阪大は高校でいうクラスみたいなコミュニティがないので、自分から友達を作りに行かなきゃいけないのでちょっと大変です。

Q5 都立高の先輩として、現役高校生にメッセージをどうぞ

テスト前の数日の勉強は忙しいですが、普段はかなり自由な時間を確保できるので自分のやりたいことがたくさんできます。また、大阪だからお笑いに厳しい人が多いと思うかもしれませんが、そんなことはないので人見知りの自分でも楽しめています。受験勉強がしんどい時は大学に入学した自分をイメージしてください。大学に入ってから思う存分遊んで思う存分休めます！

## ○祝 卒業！

国公立大学の後期試験の合格発表が3月20～24日となりますが、3月19日現在の77回生の合格状況は以下の通りです。難関国公立大学の現役合格者数は昨年度を上回り大健闘しました。

また、既卒生も東京科学大（旧東工大）、国立医学部医学科など、合格の報告が届いています。新卒生の一年間の頑張りが実を結んでいます。合格状況の最終的な結果は、次号の進路通信などでお知らせします。

\*昨年度の数値は同時期の合格状況

国公立大学	77回生（人）	昨年度（人）
東京大	2	2
一橋大	4	5
東京科学大（旧東工大）	9	3
京都大	0	1
国公立医学部・医学科（科学大1名含む）	4	1
その他国公立大	80	73
国公立大学 現役合格者数 合計	98	85
私立大学		
早慶・上智・理科大 （早稲田・慶應義塾・上智・東京理科）	177	204
GMARCH （学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政）	383	451
成蹊・成城・武蔵・明治学院	59	58

## ○合格速報会

3月19日(水)合格速報会が行われました。1・2年生に向けて、3年生から志望校合格までの学習、学校生活などを話してもらいました。皆さんが志望している難関大学の現役合格者のお話です。今後の学校生活に活かしましょう。また、新年度に配布される『進路のしおり』にも、多くの先輩たちの経験談が載る予定です。そちらも参考にしてください。下記は合格速報会の内容の概要です。77回生の合格者の情報を参考に今後の勉強の糧にして下さい。

□1年生向け：授業、課題、定期テストなど基礎基本を大切にすることの重要性が中心でした。

- ・授業が大切（基礎固めになり、受験勉強を始めた時に、1・2年生で勉強したことが役立つ）
- ・授業、定期テスト対策をしっかりとやるのが大切。
- ・課題（授業での課題、週末課題）を大切にすること。
- ・1年生は2年生での学校生活を楽しむことも大切。
- ・1,2年での基礎がしっかりしていると受験でも役に立つ。
- ・国立を目指すことをお勧めする。様々なことが学べる。
- ・英語は外部検定試験を受験することをお勧めする。
- ・志望校のオープンキャンパスに行くこと、模擬授業を受けてみる。
- ・まずは英語を優先すると成績が安定する。
- ・数学は基礎ができていないのに応用に取り組んでも伸びない。  
基本に立ち返り自分のレベルに合ったものを活用しよう。
- ・部活に全力で取り組む。仲間と共に支えあうことは大切。

□2年生向け：受験勉強全般・各科目の勉強方法が中心でした。

- ・受験勉強のスタート時期が重要（2年次の3学期からが多かった）。
- ・基礎固めはできるだけ早期に終わることが重要
- ・勉強の計画を立てて、勉強スタイルを早く確立することが重要。
- ・志望校合格を最後まで諦めず、学校の自習室を利用していた。
- ・学校の授業を大切にした。夏休みは学校の夏期講習を利用した。
- ・英語は特に大切。毎日触れること。
- ・数学は青チャート（参考書）の重要例題レベルまでをスラスラ解けるまで繰り返した。
- ・様々な情報を鵜呑みにするのではなく、自己分析が大切で、苦手分野は思い切って基本的なところまで戻ってやり直す。
- ・模擬試験は判定結果を気にするのではなく、苦手分野を見つめるツールにする。
- ・国立、私立ともに過去問対策は大切。共通テストは慣れが必要なので、過去問、予想問題を解くこと。
- ・共通テストは直前まで伸びる。
- ・地方国立志望の人もオープンキャンパス（現地）に行こう。
- ・大学に合格した後のキャンパスライフをイメージすることで、やる気を維持した。

## ○今後の予定（進路関係）

- 5月2日(金) スタディサポート（ベネッセ・1年生）
- 第1回全統記述模試（河合塾・3年生）

## 「グローバル・リーダーを目指して」

経団連副会長・事務総長  
24 回生 久保田政一

同級生のNさんからの依頼を断ることもできず、どれほど皆さんの参考になるかわからないが、私の歩んできた道と日本の経済界が高校生に求めていることについて、私見を述べさせていただきます。

私が新宿高校に入学したのは、1969年4月、その年の11月に当時の3年生が突然校長室を占拠し、その後一か月程であったろうか、授業は完全にストップし、毎日討論会の日々となった。当時のスローガンは、「ベトナム戦争反対」、「受験のための教育の改革」であったと思う。その影響もあって、卒業後は東大経済学部に入學し、マルクス経済学（宇野理論）を学ぶことにした。学者になる道も考えたが、諸般の事情でそれをあきらめた頃、ゼミの指導教官から「経団連に就職すれば本が読める」と勧められ、確たる信念もなしに、経団連に就職した。以来、半世紀の間日本の経済界とともに歩むこととなる。経団連は、大企業1500社程度をメンバーとして、経済界の立場から、企業をとりまく様々な課題について、政府等に提言し、その実現を図ってゆく団体である。

日本経済の発展のためには、人材の育成は最重要課題の一つであり、そのような観点から、国公私立大学の学長等とも意見交換を重ねてきた。経済界が若者に期待することは、「グローバルな視点に立って、自ら道を切り開いて行く」人材である。これまでは同質的な日本社会にあって、調和を重んじあらかじめ決められた答えを早く見つける人材が求められてきた。これからは、正解のない社会にあって、経済社会をグローバルな視点で俯瞰し、自ら課題を見つけて解決し、新たな価値を創造できる人材が不可欠である。そのためには、初等中等教育では、多様性や主体性、好奇心を育てる教育が望まれる。高等教育にあっては、「文理融合」、「グローバル」な教育が必要となる。これからは、「総合知」が求められるなか、高校の段階で理系と文系を分けて、文系コースでは、高度な数学や物理・化学等を必修としない教育は改められるべきであろう（もっとも、私自身は、早々と文系を選択し、これらの科目は、おざなりにしか勉強しなかったのであるが）。さらには、諸外国に比べ圧倒的に少ない博士人材の育成も急務となっている。他方、最近のスポーツ界では、世界的に通用する選手が数多くうまれている。彼らは最初から世界目線でトレーニングを積んできたに違いない。グローバルな時代において、若者には世界を目指して、海外に出て勉強するなり、ビジネスをするなりという経験を是非積んでほしい。そのためには留学制度の一層の充実が必要であると考えている。私自身、シンガポール国立大学への留学や、ワシントンの日本大使館で働く機会を得たが、今考えても大変貴重な経験であったと思う。自分とは言語も文化も違う人々を受け入れ、ともに学び、働くという経験を是非積んでもらいたい。

振り返ってみると高校時代は、先生に反抗したり、こんな授業は何の役に立つのかと疑問をもったこともあったが、新宿高校で学んだ基礎的な知識や、原理原則といったものは、その後の人生において大変役に立った。今後も新宿高校から一人でも多くの「グローバル・リーダー」が育っていくことを期待して、私からのメッセージとしたい。

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）